

INTA 年次総会 2016 Orlando に参加して

1. 概要

本年度の INTA（国際商標協会、本部 NY）年次総会は、米国フロリダ州オーランドで5月21日にかから25日まで開催された。これは商標に従事する実務家や政府関係者、企業、学者が年に一度集う会議で、今年の参加国・地域総数は149、参加総数は初めて一万人の大台を超え（10087人）、過去最高を記録した。参加人数多数国ベスト10は下記の通り。

米国	3 4 0 9（人）
英国	5 2 8
中国	4 7 7
ドイツ	4 0 3
カナダ	3 0 3
メキシコ	2 5 8
インド	2 5 7
日本	2 4 9
フランス	2 4 5
ブラジル	2 0 9

参加者の内訳は弁護士・弁理士等の実務家が最も多く（8491）、企業（1168）、政府関係（158）、学者（127）、その他となっている。実務家の参加数は昨年より若干減ったのに対し、企業の参加数は200以上増加した。世界のブランドランキング1位のAppleからは11人、2位 Google 8人、3位 Samsung 4人、4位 Amazon.com 6人、5位 Microsoft 5人が参加したという。（参考資料 <http://www.worldtrademarkreview.com/blog/detail.aspx?g=cfe43538-8d69-45ae-a218-3480d87b9b08>）。

フロリダ州という場所柄か、南米各国からの参加者、並びに近年の傾向であるアフリカ各国からの参加者が多いように感じられた。大手有名事務所主宰のレセプションについて、出席者限定の招待型は従来通りと見受けられたが、不特定多数向けレセプションの数や規模は減少傾向にあるようだった。

2. What's New

以下、総会の間にて得た商標関連の断片的情報をご紹介します。

1) マドプロ関連

アフリカからの加盟国が増え、現在の加盟国は97。近い将来加盟が見込まれるのはブルネイ、インドネシア、マレーシア、タイなど。南米各国並びにカナダは国内法の準備に手間取って遅れている。

2) EUIPO (旧 OHIM) 関連

今年3月23日より9月23日まで Declaration 提出期間がスタートしたが、出足は鈍く、要観察。EUTM (旧 CTM) 登録を多数有する権利者は、現在の権利内容を見直すといよい。

3) メキシコ

2013年にマドプロに加盟したが、審査官が慣れないため、審査が遅延する傾向。

4) インド

今春知財庁が200万件の出願を放棄する事態が発覚したが、4月5日付デリー裁判所命令により放棄処分が停止された後、収束に向かった。時期は未定ながら、今後新たな規則の施行と印紙代の値上げが見込まれるとのこと。

3. 現地での活動

INTA は、主に各国の代理人とミーティングをし、個別案件のフェイス・トゥ・フェイスでの相談ができ、また、意見や情報を交換しながら国際的な交流を深めることのできる場である。

今回の INTA でも、例年のように、滞在期間中は毎日、仕事のやりとりのある外国代理人と会って相談や情報交換を行った。具体的には、アメリカ、メキシコ、チリ、イギリス、ベルギー、オーストラリア、中国、韓国、台湾、タイ、インドなどの代理人とミーティングを持った。多いときは、一日に6人の代理人とミーティングすることもあった。互いの国における近年の商標制度の動向や特許庁における審査の傾向、現在依頼している案件についての進捗状況の確認など、有意義な情報交換ができた。

また、個別のミーティングの他にも、INTA 主催のセミナーや、大手事務所によるレセプションに参加することもでき、新たな代理人や企業担当者との出会いの機会もある。今回は滞在中に3つのレセプションにも参加し、人脈を広げることができた。

4. 雑感

今回の開催地であるアメリカ合衆国フロリダ州オーランドは、アメリカ屈指の観光都市である。ディズニーワールドやユニバーサルスタジオなどのテーマパークの他、ビーチやゴルフ場、ショッピングセンターなどがあり、観光客（特に家族連れ）で賑わう。INTA が開催された期間は真夏の暑さで、地元の人や観光客は夏仕様の軽装で気持ちよさそうに過ごしていた。そんな気候のなか、スーツに身を包み、汗だくで歩いている人たちが INTA の参加者である。その他の一般の人たちと比べると異様な出で立ちであり、一目で INTA 参加者だと分かった。

外は暑かったが、INTA の中心施設であったコンベンションセンターの中は涼しく、快適であった。そのためか、私の印象では施設の外で立ち話をしている人はあまり見かけなかったように思う。皆、コンベンションセンターの中で涼みながら、各国代理人との交流を深めていた。

暑さの他に、今回の INTA でほとんどの人が苦勞したのは、移動距離であったと思う。コンベンションセンターに近いホテルは Hyatt Regency と Rosen Plaza くらいで、その他のホテルは徒歩だと結構な距離を歩く必要があった。外国代理人とのミーティングが離れたホテル間で予定されていたら大変である。おそらく皆、TAXI か Uber を頻繁に利用していたに違いない。

ちなみに、「Uber」は知っているだろうか？Uber とは、簡単に言えば『一般人が運転しているハイヤー』のことである。スマートフォンで専用のアプリをダウンロードし、初めにメールアドレスやクレジットカードを登録しておく。いざ Uber を呼ぶときにアプリを開くと、GPS 機能により、自分の現在地にもっとも早く着く Uber を自動で検出し、ユーザーは依頼ボタンを押すことで Uber を呼ぶことができる。大体 5 ～ 10 分程度で迎えに来てくれる。また、アプリ上で目的地を入力しておくため、到着までの時間や運賃が乗車前に分かり、とても良心的である。しかも TAXI の約半額くらいで乗ることができる。ある外国の代理人が、「今回の INTA の一番の収穫は Uber の存在を知ったことだ！」と言っていたが、あながち大げさでもないかもしれない。それくらい、多くの INTA 参加者は Uber を利用していたし、私自身も Uber のヘビーユーザーであった。

こうして滞在中は、暑い中、コンベンションセンターとホテルを徒歩又は Uber で行き来しながら、各国代理人とのミーティングに追われていたが、最終日は INTA フィナーレのイベントがユニバーサルスタジオの一角を貸し切って盛大に行われた。ミーティングをした代理人のほとんどが楽しみにしていたイベントである。目玉はハリーポッターの乗り物であり、貸し切りにも関わらず行列ができていた（それでも一般よりかなり短い待ち時間で乗ることはできた）。私は、今回の INTA で知り合った韓国の代理人と 4 人でハリーポッターに乗ったり、一緒にお酒を飲んだりして、最後の夜を楽しんだ。

このように、あっという間に INTA が終わったのであるが、様々な国の代理人と話ができる機会というのはそう滅多にあるものではなく、この数日間でもとても貴重で楽しい経験ができたと思う。しかし、率直な感想としては、オーランドはビジネスで行くところではないということである。次回のオーランドは是非家族で行きたいと思っている。ある Uber の運転手に確認したところでは、1 月下旬から 3 月上旬くらいが涼しくてお勧めらしい。

以上

弁理士 矢野 公子
弁理士 大塚 啓生